

現代 GP 国際シンポジウム報告

「持続可能な未来をつくる環境教育～グローバルな視野と地域での実践～」

北海道教育大学・現代 GP プロジェクト

平成 19 年度文部科学省現代的教育ニーズ取組み支援プログラム（現代 GP）の採択事業である「持続可能な社会実現への地域融合キャンパス」の取り組みとして、国際シンポジウム「持続可能な未来をつくる環境教育～グローバルな視野と地域での実践～」が 2008 年 7 月 9 日に釧路市観光国際交流センターで開催された。

このシンポジウムは北海道教育大学が主催し、環境省北海道地方環境事務所、北海道、北海道教育庁釧路教育局、釧路市、釧路市教育委員会、北海道新聞社、釧路新聞社、NHK 釧路放送局、FM 釧路の後援を受けておこなわれた。ゲスト講師として、アメリカのアラスカ大学からレイ・バーンハート・教授、オーストラリアのモナッシュ大学からフィリップ・ペイン准教授、埼玉大学から曾貧（ソウ・ヒン）講師（非常勤）、東京農工大学から朝岡幸彦・准教授の計 4 名が招かれ、会場には本学教職員、学生のほか、公立学校教員、NPO 法人職員、一般市民等約 150 名が詰めかけた。

また、このシンポジウムのサテライトセッションが、7 月 5 日、6 日の両日に北海道教育大学札幌キャンパスで開催された「グローバル環境教育国際会議 2008」の中で実施された。

7 月 9 日のシンポジウムでは、佐々木巽副学長（釧路校担当）の開会挨拶に引き続いて、5 題の基調講演とゲスト講師をパネラーとしたパネルディスカッションが行われ、ロビーではポスターセッションも行われた。

最初の基調講演「地球環境の危機と環境教育の必要性」では、本学釧路校教授・神田房行氏が様々な地球環境問題を取り上げ、環境教育の必要性と環境教育の考え方がリオデジャネイロの地球サミットを契機と



開会挨拶をする佐々木巽副学長。



北海道教育大学の神田房行氏の講演。



モナッシュ大学のフィリップ・ペイン氏の講演

してESD(持続可能な開発のための教育)に変わってきたことを紹介した。

基調講演の2番目、フィリップ・ペイン氏の講演「教育改革に向けた社会生態学の偉大な道徳的挑戦」では、現代オーストラリア社会における若い世代の環境意識が低下していること、いかにエコ教育を進めるか、そのための社会や政治の関わりについてセンセーショナルなマスコミの記事などを紹介しながら報告された。

基調講演の3番目、レイ・バーンハート氏の講演「地域に根ざした教育とアラスカ先住民の知恵」では、環境教育におけるアラスカ先住民の生活の知恵や伝統的文化から我々が学ぶべきものが大変多いことが示された。

基調講演の4番目、曾貧氏の講演「グローバル経済、環境問題そして中国の環境教育」では、現代中国で起きている環境問題や社会階層の現状、環境問題解決のための中国の国内外の事情などについて説明がなされた。

基調講演の最後、朝岡幸彦氏の講演「持続可能な社会のための環境社会教育」では、環境教育やESDについて、教育学の視点からの考察が報告された。

パネルディスカッションは、神田房行氏の司会のもと、環境教育を通して持続可能な未来をつくるために、私たちがこれから何をすべきかが各パネラーの見解を丁寧に結び合わせながら討論された。その中で自然との共生の大切さや、現代社会における環境教育の問題点と課題について、活発な意見交換が行われ、参加者からも質問や感想が多数寄せられた。パネルディスカッションでは、文化や民族の違いがある中で、環境教育を進める人々がコミュニケーションを図りながら共通理解を導き出すことの大切さを会場全体で確認することができた。

ポスターセッションでは、本学学生やNPO法人等から20点以上のポスター発表が行われ、積極的な問題提起や活動の報告が行われ、ゲスト講演講師がポスター発表者に質問する場面も見られる等、環境に対する課題を共有する意味でも大変有意義であった。

本シンポジウムを通して、グローバルな環境問題と持続可能性、ESDにおける地域での



アラスカ大学のレイ・バーンハート氏の講演。



埼玉大学の曾貧氏の講演。



東京農工大学の朝岡幸彦氏の講演。

取り組みの重要性などに関して様々な視点からの論点が提起され、学生・市民をはじめ参加者の環境教育や ESD に対する視野の拡大や考え方の深化の役に立ったと思われる。

今後は、ESD についての数々のアイデアや世界各地での取り組みの内容を学生教育や一般市民を含む ESD プランナー養成の中に組みこんで、自然と共生する持続可能な地域社会を実現するために積極的に活動し、地域と連携できる人材の育成と自然再生、地域社会の活性化に貢献する人材を養成していくほか、シンポジウム報告書を各方面へ配布して ESD の普及に貢献するなどして、このシンポジウムの成果を GP 事業に反映させていく予定である。



活発に意見が交換されたパネルディスカッション。



ポスターセッションでも賑やかな研究教育活動の交流が行われた。